

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

討議年月日:令和 4年 4月 23日

公表:令和 4年 5月 1日

事業所名 セカンドホームしん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		
	2	職員の配置数は適切である	○		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員各自が、自分の役割に応じて支援内容や事故防止、感染予防対策等の計画立案、実行、評価を行っている。その評価を基に、修正や変更、計画の更新を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		5月1日にホームページにて公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画を立て、実施している。また、利用者の特性に応じた支援に必要な研修をその都度実施している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的にモニタリングを行い、子どもと保護者のニーズを把握し、課題を抽出し支援計画を作成している。また、利用者との状況を送迎時に保護者へフィードバックしたり、学校や家庭での状況を共有し支援計画に反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間や利用者の年齢・特性に合わせた課題を設定している。また、その日利用者の状況に合わせて、適宜課題の変更もしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		毎日、個別活動を20～30分間実施し、その後集団活動を実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳及び、業務日報に担当者が記録を行っている。その結果を踏まえて、日々の紫煙を検討している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	コロナ対策のため、面会などの制限があるため、サービス担当者会議が実施されていない。しかし、適宜電話で学校や保育園、相談支援員等の関係機関の担当者と連携を図っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	コロナ対策のため、面会などの制限があるため、サービス担当者会議が実施されていない。しかし、適宜電話で学校や保育園、相談支援員等の関係機関の担当者と連携を図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	医師の指示書の持参を依頼している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	コロナ対策のため、面会などの制限があるため、サービス担当者会議が実施されていない。しかし、適宜電話で学校や保育園、相談支援員等の関係機関の担当者と連携を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	現在対象児童が居ないが、保護者の了承を得たうえで実施していく予定。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	コロナ対策のため、実施が出来ていない。コロナやインフルエンザ等の感染リスクが低い時に計画・実施を行っていく予定。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	コロナ対策のため、実施が出来ていない。コロナやインフルエンザ等の感染リスクが低い時に計画・実施を行っていく予定。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	利用者の状況を送迎時に保護者へフィードバックしたり、発達支援センターや学校、家庭での状況を共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	送迎時の保護者へのフィードバック時に家庭でも
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保護者の希望に応じて、事業所内相談連携や電話での相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	コロナ対策のため、実施ができていない。コロナやインフルエンザ等の感染リスクが低い時に計画・実施を行っていく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情があった場合、職員全員で状況を共有、確認を行い、改善策を検討し周知している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	行事予定は全利用者に配布している。会報に関しては、個人情報保護への配慮からイベント参加者のみに配布していたが、今後個人情報保護の方法を検討し、全利用者に配布していく予定。
	35	個人情報に十分注意している	○	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	町内会や自治会の方々にイベント協力をして頂いたり、利用児童と地域清掃を行う等、地域の方々との交流を図っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震を想定した、2回／年、災害時避難場所への避難を実施した。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現在、重度の食物アレルギーがある利用者はいないが、保護者よりアレルギーと疑わしい食物があるか確認を行い、職員全員で提供しないように共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		